

業況判断D I 7月~9月は△14.9と依然マイナス

【2022年7月~9月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で3.2ポイント低下し△14.9となりました。

製造業以外の5業種において業況判断D Iがマイナスとなっており、景況感は低めで推移しています。

【2022年10月~12月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で4.3ポイント上昇し、△10.6となっています。

業種名	時期	2022年 4月~6月		2022年 7月~9月		2022年 10月~12月 (予想)
全業種総合		☂ △11.7	↙ △3.2	☂ △14.9	↗ 4.3	☂ △10.6
製造業		☂ △12.8	↗ 12.8	☁ 0.0	↗ 2.5	☁ 2.5
卸売業		☁ 4.6	↘ △31.9	☂ △27.3	↗ 3.5	☂ △23.8
小売業		☂ △21.6	↗ 0.5	☂ △21.1	↗ 0.0	☂ △21.1
サービス業		☂ △20.6	↙ △5.8	☂ △26.4	↗ 17.6	☁ △8.8
建設業		☁ △4.7	↙ △0.2	☁ △4.9	↙ △4.8	☁ △9.7
不動産業		☁ 0.0	↘ △11.1	☂ △11.1	↗ 0.1	☂ △11.0

景況
天気図
の目安

D I

好調 ←

30以上
☀

10以上
30未満
☁

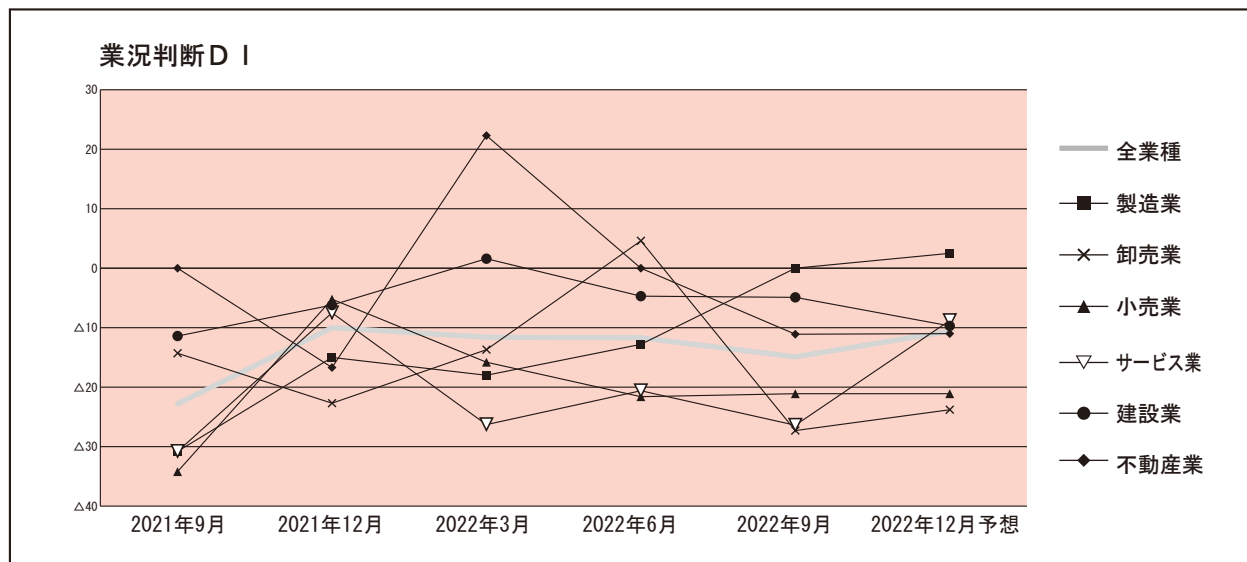
0以上
10未満
☁

△10以上
0未満
☂

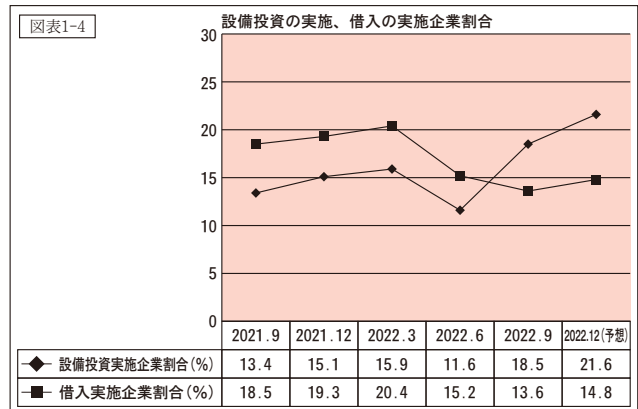
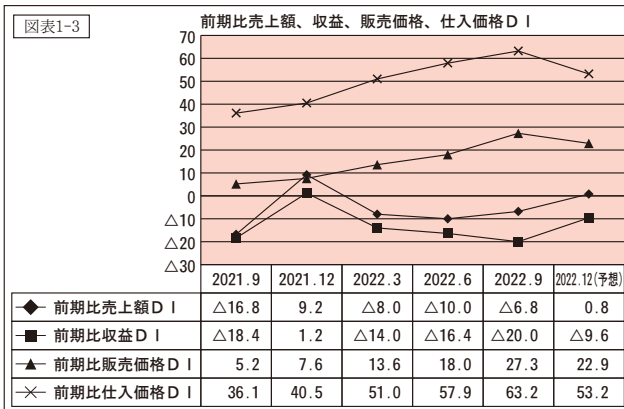
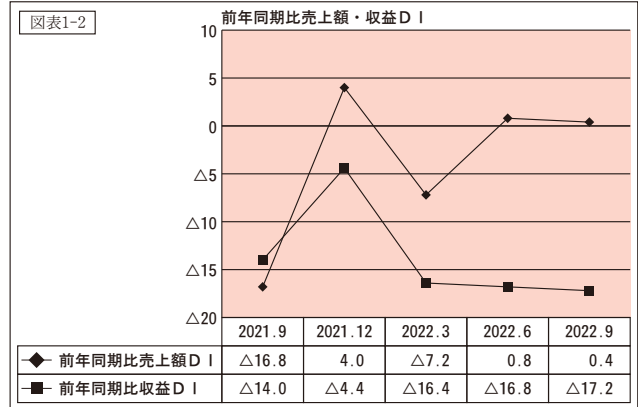
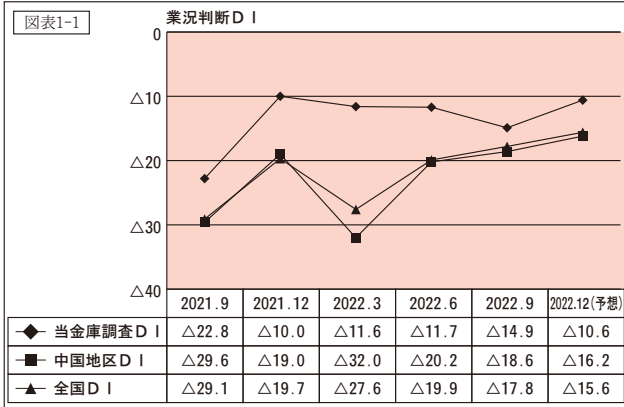
△30以上
△10未満
☂

△30未満
☂

→ 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D Iは△14.9で3期連続の低下～

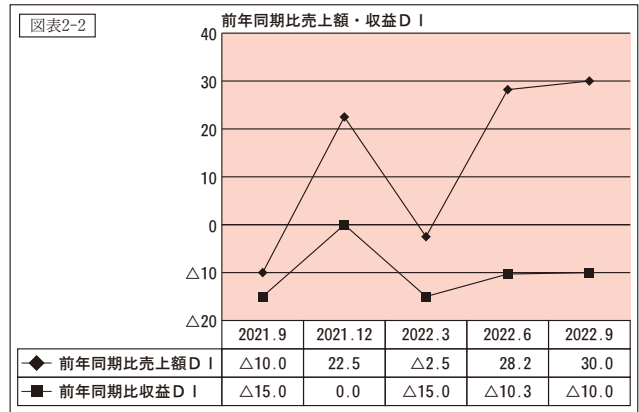
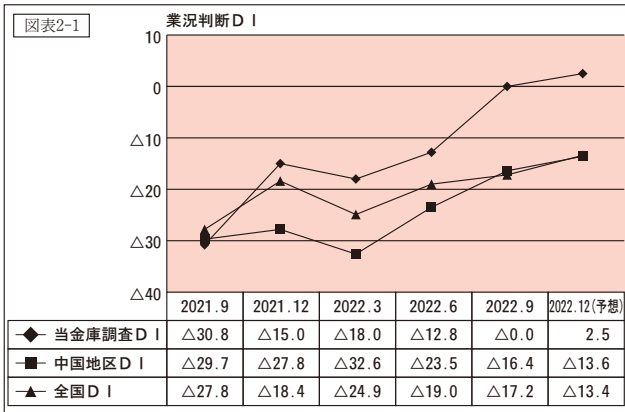
今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**3.2ポイント低下**し△11.7→△14.9となりました。マイナスでの推移が続いていますが、中国地区D I（△18.6）、全国D I（△17.8）と比較して当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間（2022年10月～12月）の予想業況判断D Iは△14.9→△10.6と、今回調査比**4.3ポイントの上昇予想**となっています。改善予想ではあるもののマイナスとなっており、景況感は低調に推移するものと予想されます。（図表1-1）。

前年同期比売上額D Iは0.4、同収益D Iは△17.2となっています。売上額・収益共に悪化しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大および原材料や燃料費の高騰が悪影響を与えていることが想定されます。（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は18.5%となり、前回調査比6.9ポイントの上昇。借入を実施した企業の割合は13.6%となり、前回調査比1.6ポイントの低下となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は21.6%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して3.1ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は14.8%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して1.2ポイントの上昇となっています（図表1-4）

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業は46.2%（前回調査比△3.8ポイント）にのぼっており、約半数の企業が設備投資を実施予定であることが窺えます。

製造業



景況 ～今期大幅上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは $\Delta 12.8 \rightarrow 0.0$ と前回調査比**12.8ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは $0.0 \rightarrow 2.5$ と**2.5ポイントの上昇予想**となっています(図表2-1)。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は全体として緩やかに増加しているとの判断となっており、自動車においては供給制約の影響が和らぐもとの、持ち直しているとなっています。

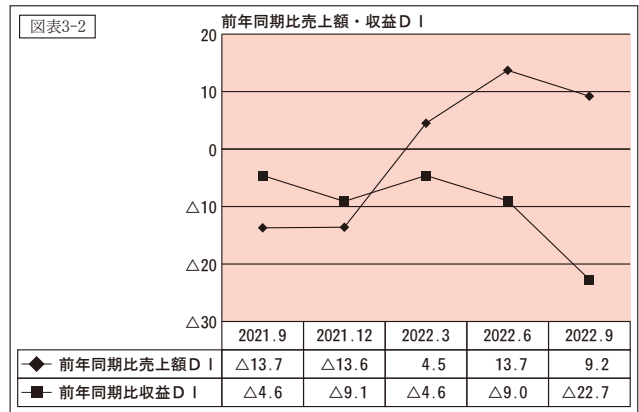
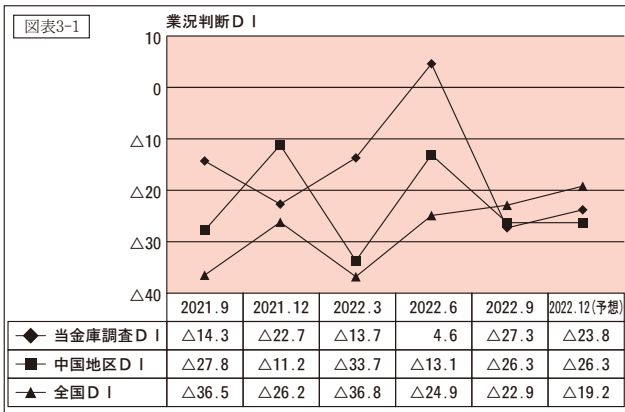
経営上の問題点において「原材料高」の回答が大幅に増加しており、利幅の縮小を招いていることが予想されます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	原材料高	67.5%	売上の停滞・減少	32.5%	人手不足 利幅の縮小	20.0%
当面の重点経営施策	販路を広げる	50.0%	経費を節減する	37.5%	人材を確保する	27.5%

卸売業



景況 ～今期大幅低下 来期は上昇の予想～

今期の業況判断D Iは $4.6 \rightarrow \Delta 27.3$ と前回調査比**31.9ポイントの大幅低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは $\Delta 27.3 \rightarrow \Delta 23.8$ と**3.5ポイントの上昇予想**となっています(図表3-1)。

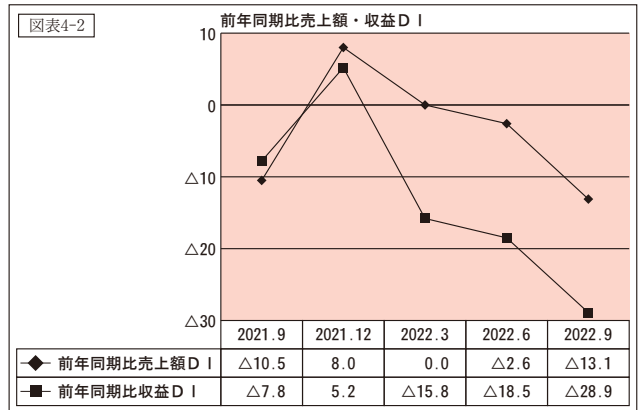
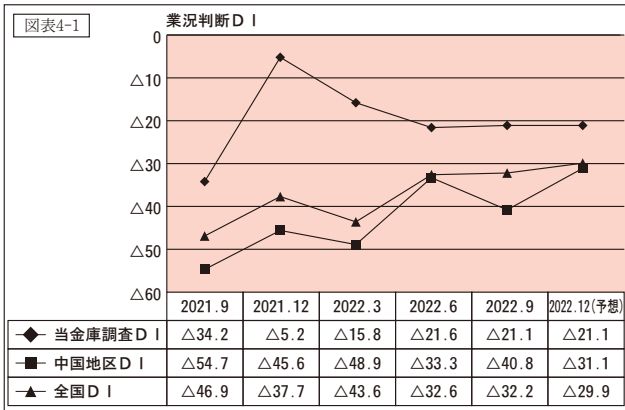
経営上の問題点としては「利幅の縮小」、「同業者間の競争の激化」の回答が増加しており、景況感悪化の要因となっています。当面の重点経営施策では「販路を広げる」、「情報力を強化する」、「連携先を見つける」といった売上増加に向けた施策が大幅に増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	利幅の縮小	45.5%	同業者間の競争の激化	40.9%	売上の停滞・減少 仕入先からの値上げ要請	36.4%
当面の重点経営施策	販路を広げる	77.3%	経費を節減する 情報力を強化する	40.9%	連携先を見つける	27.3%

小 売 業



景 況 ～今期上昇 来期は現状維持の予想～

今期の業況判断D Iは△21.6→△21.1と前回調査比**0.5ポイントの上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△21.6→△21.6と**現状維持の予想**となっています（図表4-1）。

経営上の問題点において、「販売商品の不足」、「大型店との競争激化」が増加し、「売上の停滞・減少」が最も多い回答となっており、原材料高等に起因する商品の供給不足の影響が出ていることが分かります。

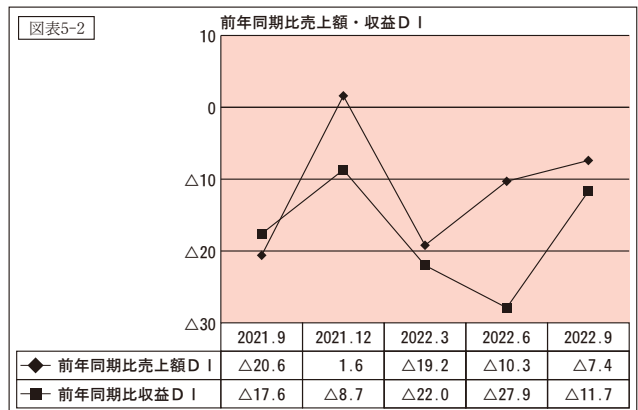
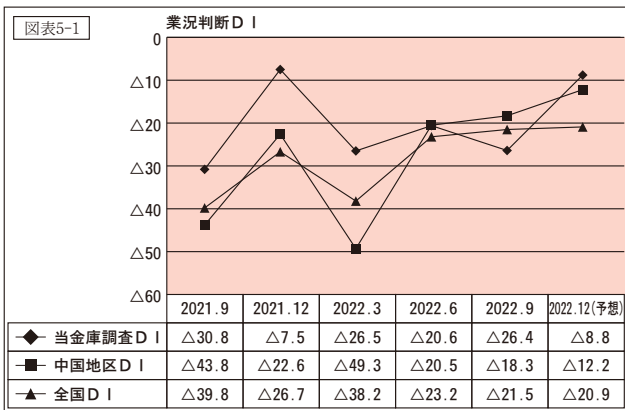
当面の重点経営施策では「経費を節減する」、「売れ筋商品を取扱う」との回答が最も多くなっており、販売商品の確保を課題としている企業が多いことが分かります。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	36.8%	販売商品の不足	26.3%	大型店との競争激化	23.7%
当面の重点経営施策	経費を節減する	34.2%	販路を広げる	23.7%	宣伝・広告を強化する	18.4%
	売れ筋商品を取扱う	34.2%				

サービ 業



景 況 ～今期低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△20.6→△26.4と前回調査比**5.8ポイントの低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△26.4→△8.8と**17.6ポイントの大幅上昇予想**となっています（図表5-1）。

外出自粛規制が緩和され、従前までの消費行動が戻りつつあることから、来期の大幅上昇予想となっているものと想定されます。

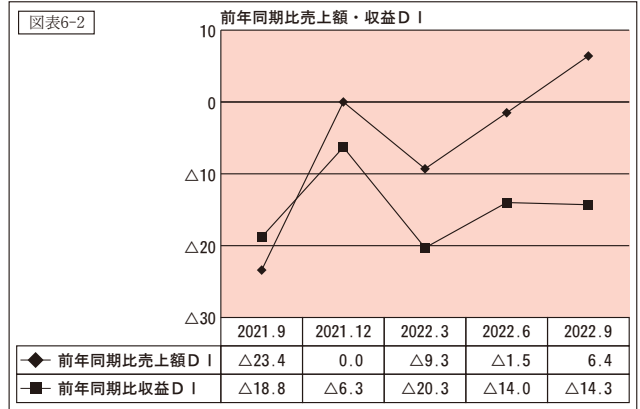
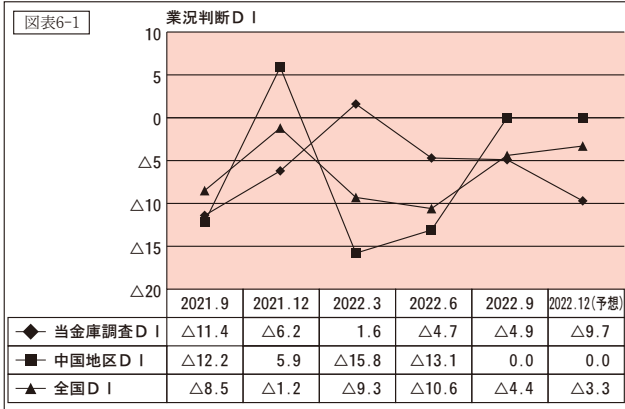
当面の重点経営施策では「販路を広げる」との回答が大幅に増加しており、既存の販路に依存せず、新たな販売先を模索している企業が増加していることが想定されます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	41.2%	材料価格の上昇	36.8%	同業者間の競争の激化	29.4%
当面の重点経営施策	販路を広げる	52.9%	経費を節減する	41.2%	人材を確保する	14.7%
					宣伝・広告を強化する	14.7%

建設業



景況 ～今期低下 来期も低下の予想～

今期の業況判断D Iは△4.7→△4.9と前回調査比**0.2ポイントの低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△4.9→△9.7と**4.8ポイントの低下予想**となっています（図表6-1）。

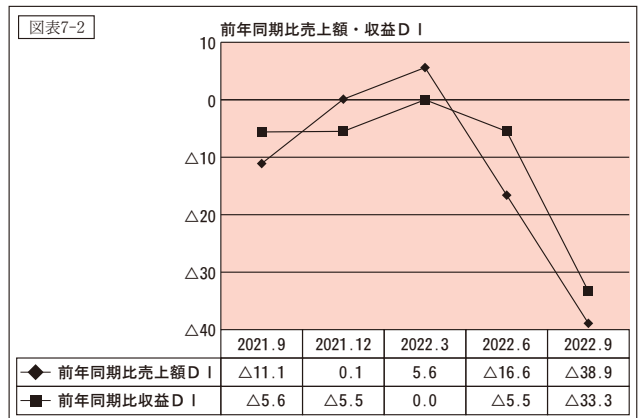
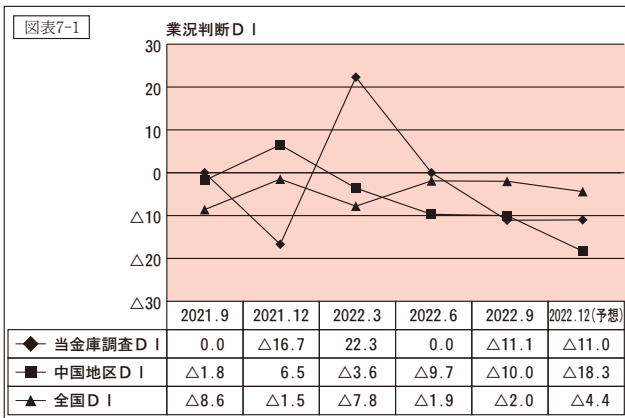
建築資材、燃料費の高騰や材料の供給不足のため依然として景況感はマイナスとなっており、来期についても悪化予想となっています。重点経営施策として「販路を広げる」、「技術力を強化する」をあげている企業が増加しており、販路開拓のため他社との差別化を検討している企業が多くなっていることが予想されます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	64.1%	売上の停滞・減少	35.9%	人手不足	26.6%
当面の重点経営施策	販路を広げる	45.3%	人材を確保する	28.1%	技術力を強化する	25.0%
	経費を節減する	45.3%				

不動産業



景況 ～今期大幅低下 来期は上昇予想～

今期の業況判断D Iは0.0→△11.1と前回調査比**11.1ポイントの大幅低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△11.1→△11.0と**0.1ポイントの上昇予想**となっています（図表7-1）。

依然として「商品物件の不足」を問題点としている企業が最も多く、その影響から「売上の停滞・減少」を問題点として回答する企業が大幅増加しています。重点経営施策として「情報力を強化する」、「販路を広げる」をあげている企業が増加しており、売上確保に向けた施策を検討している企業が増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の不足	44.4%	売上の停滞・減少	33.3%	同業者間の競争の激化	22.2%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	55.6%	販路を広げる	44.4%	商品物件の高騰	22.2%
					経費を節減する	27.8%

調査先企業の声

製造業

- ・飼料の価格は3カ月ごとに見直すため仕入値の高騰をカバーできるが、どこまで値上げするか悩ましい。【家畜飼料】
- ・新商品開発に力を入れており、自社商品の宣伝にInstagram等SNSを積極的に活用している。【海産物加工】
- ・外国人労働者の受け入れが再開され、受注増、売上増が期待できる。【縫製加工】

卸売業

- ・選挙等の要因により受注増加。資金繰り円滑にまわっている。【印刷資材】
- ・前年比で売上は増加しているが、仕入値も上昇しており業況不安定。【材木】
- ・輸入物の単価が上昇し、販売価格に転嫁できていない状況。今後交渉を進める。【箸】

小売業

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により人流が抑制され売上減少。【婦人服】
- ・通常であれば夏場はエアコンが売れるが、半導体不足による入荷遅延の影響があった。物価上昇による買い控えも懸念している。【家電】
- ・近隣に大型店舗が複数出店。競争激化が予想されるが、固定客を確保しており、ある程度は安定推移の予想。【自動車】

サービス業

- ・新車販売の停滞により修理も減少傾向にある。今後受注できる仕事の種類を増やしていく。【自動車修理】
- ・コスト高から、小規模の店舗への移転を検討している。【美容院】
- ・品不足から、中古品の需要が増加しており売上増加傾向にある。【リサイクル】

建設業

- ・新型コロナウイルス感染症対策として空調設備の導入、メンテナンスが増加しており増収傾向にある。【空調設備工事】
- ・特殊工事である橋梁工事という業種柄、一定の受注は確保しているが、天候の影響により工期遅延していることと資材高騰により利幅縮小予想。【橋梁工事】
- ・業況堅調に推移しており、今後は関西圏からの受注増加を見込んでいる。外注先の確保が課題。【管工事】

不動産業

- ・入居状況に変化なく収入安定している。価格高騰により投資利回りが低くなっているため新規物件の購入は控えている。【不動産賃貸】
- ・商品物件の不足が問題。顧客は県外からも獲得しており、引き続き営業努力を続け売上を確保する。【不動産仲介】
- ・地価が上昇しており、売買共に厳しくなっている。ネット広告のみではなく業者の紹介ページに掲載し周知をおこなう。【不動産仲介】

おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

記

<商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

<商品説明>

1. 商品名
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
 - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
 - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
 - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
 - ・反社会的勢力に該当しない方
 - ・当金庫の会員であること
3. 資金用途
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）
固定金利
・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%
※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保
不要
9. 連帯保証人
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社
株式会社クレディセゾン

以 上

調査の要領

- 1) 調査時点 2022年9月1日～7日
- 2) 調査対象期間 2022年7月～9月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断DI）を中心に分析
※DI＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格DIについては逆）
- 6) その他 全国DIならびに中国地区DIは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	20	15	31	47	52	16	181	72.4%
10～19	9	2	4	7	5	2	29	11.6%
20～29	5	3	0	7	6	0	21	8.4%
30～49	2	1	2	3	1	0	9	3.6%
50以上	4	1	1	4	0	0	10	4.0%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	6	24	35	34	8	127	50.8%
10,000～49,999	17	16	13	30	30	10	116	46.4%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断DIは前回調査比で3.2ポイント低下し△14.9となりました。新型コロナウイルス感染症および原材料や燃料費の高騰の影響から依然として地元経済の停滞感が続き、厳しい状況で推移しました。来期の予想業況判断DIは製造業の生産面の持ち直しや、消費マインドの改善から全業種総合で上昇予想となっています。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2022.11 —
〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
http://www.shinkin.co.jp/okayama/
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp